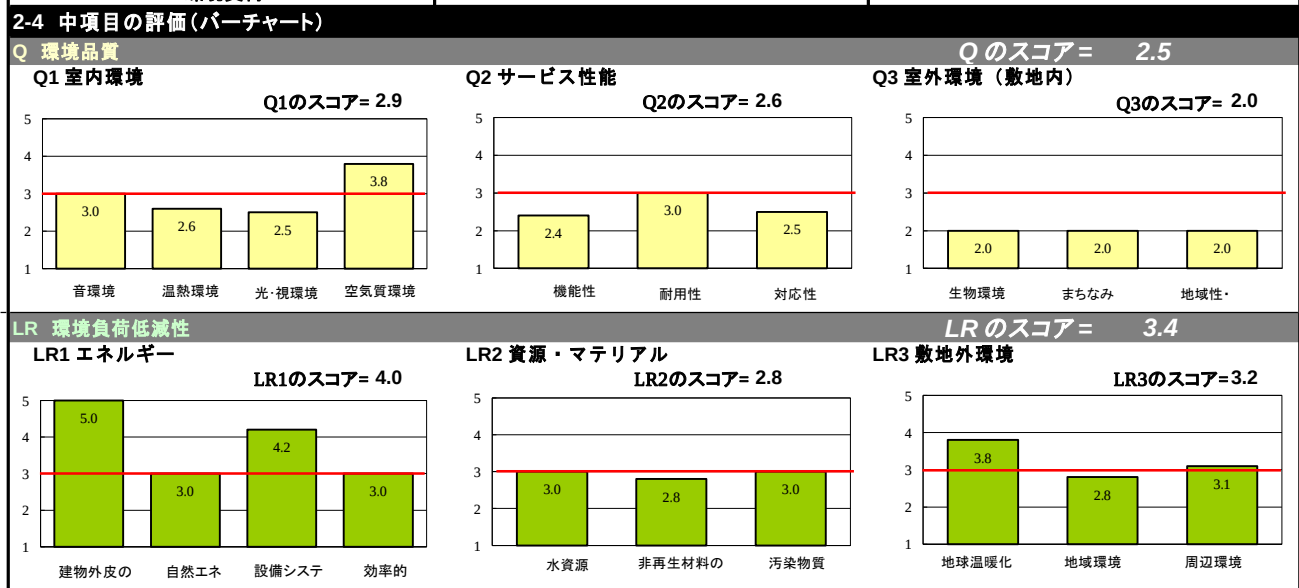
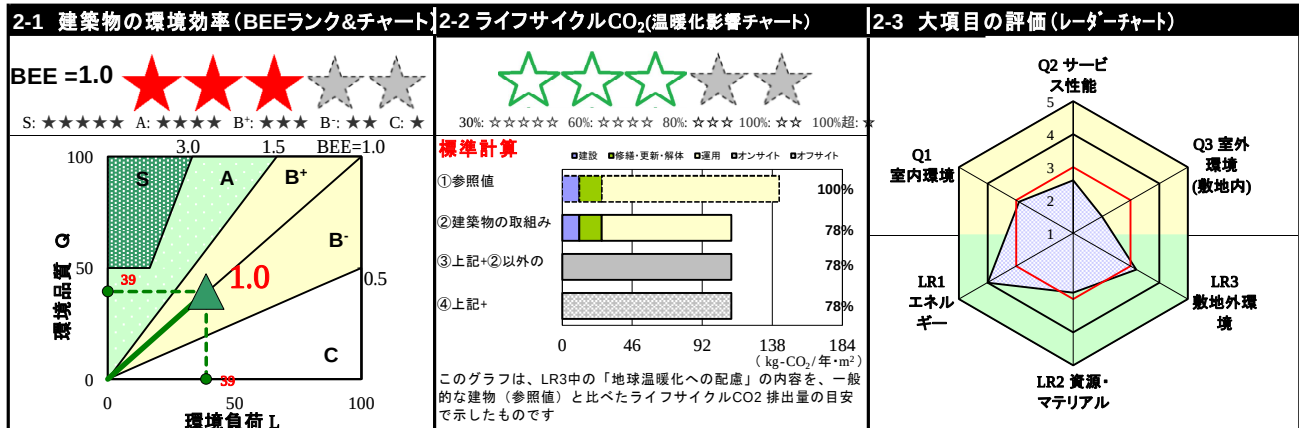
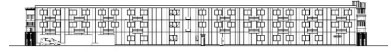


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岸部北PJ	階数	地上3F
建設地	大阪府吹田市岸部北	構造	S造
用途地域	第二種中高層地域、準防火地域	平均居住人員	62 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年6月18日
敷地面積	1,420 m ²	作成者	アトリエ・ループ小林建築設計事務所
建築面積	890 m ²	確認日	2025年6月18日
延床面積	2,622 m ²	確認者	アトリエ・ループ小林建築設計事務所 小林 健一郎



3 設計上の配慮事項		
総合 - 住宅街である周辺環境に考慮し3階建てとし建物高さを抑える計画とした。 - 設備機器等からの騒音振動に配慮した設備計画とした。 - 敷地周辺に生活道路等があることから敷地境界線沿いに緑地を多く配置する計画とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 病室部分において、高い昼光率を確保している。また、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 空調・給排水配管の更新対策に配慮し、建物のサービス性能の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー BPI_m=0.71、BEI_m=0.73としている。	LR2 資源・マテリアル OAフロア、LGS下地を採用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率78%とし、光害抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)岸部北PJ					
建設地		大阪府吹田市岸部北					
用途／区分		病院 工場					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能					4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外			評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分				3	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.2	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							